◆　足立都税事務所長賞　◆

「支えて支えられて」

足立区立栗島中学校　２年　佐藤　優月

学生にとってなくてはならないもの。それは教科書だ。授業中、勉強中、当たり前のように私の隣にあるもの。小学校含め、私達は何十冊もの教科書を使ってきただろうか。では、なぜ教科書に税金が使われているのか、調べてみた。

外国では、日本のように教科書が無償で支給されたり、一人一冊あるということは少ないそう。新学期に新しい教科書が配られ名前を書く、の流れは当たり前でないということだ。

教育に使われる税金は、義務教育期間の九年間を合計すると、一人当たり約八百四十五万円だという。他にも、校舎やパソコンなどの電子機器、理科の実験道具などにも税金は使われている。

では、なぜ教育費には多くの税金が使われているのだろうか。インターネットでその理由を調べてみた。すると、「教育についての権利と義務があり、国には国民が教育を受けられるよう、環境を整える役割がある」という訳や、「教科書は義務教育の根幹を支えるものであり、国民全体の次世代を担う子どもたちへの願いや思い」が込められているから、などという結果となった。

この結果から私は、日本政府の考えを二つ感じとることができた。一つは、家庭の貧富の差で教育の質が変わらないようにするため。もう一つは、日本の未来を任せるため、子どもたちに必要な知識や常識を身につけさせるため。日本政府の教育に多くの税金が使われるというシステムは、我が国を考えての政策だということがわかる。

学生の私たちが今すべきことは、期待に応えるように学習すること、だと思う。教育費として使われている税金は、国民が国のために納めたお金であるため、そのお金を使わせてもらっている、という恩を将来必ず返さなくてはいけないと、私は思う。働いてしっかりと納税をし、そしてまた次世代の子どもへと託す。これが社会、税のサイクル。現在私は社会に支えられているが、将来、支える立場となりたい。「支えて支えられて」こんな関係がいつまでも続くように。